

【4・4講演会「日本農業を憂える」レジュメ】

参議院議員 山田俊男

I・前置きとして～1987年「いのちの祭り」は農協組織
が初めて、消費者と手を取り合おうとした試みだった

II・「我が国農業が抱える課題と将来」

① 圧倒的な農業従事者の減少と高齢化

「今、何が起きているのか」

【資料1 ページ「今、もっぱら抱えている課題と取り組み対策」】

【資料2 ページ「農地面積の減少」】

② 物流の高速化と輸出入の拡大

【資料3 ページ「輸出入の拡大」】

③ 機械化と農地の規模拡大

【資料4 ページ「機械化と担い手への農地集積による規模拡大」】

④ 食生活の変化・コメ消費の減退と在庫の累積、米価の低下

【資料5～6 ページ】

⑤ 規模拡大の限界と農産物輸入に頼らざるを得ない状況

【資料7 ページ「経済・社会では、何が生じているのか」】

【資料7 ページ「主な農産物の輸入額と輸入先国」】

【資料7 ページ「農業所得に占める補助金の割合等」】

⑥ さらに、どこに向かうのか

【資料8 ページ「新規就農者の数」「食料自給率の推移」】

⑦ 政策に求められるもの

【資料7 ページ「農業所得に占める補助金の割合等」】

- ・ 米国、ヨーロッパの国々は高い補助金と予算を支出
- ・ 水、農地の保全、財政負担への合意

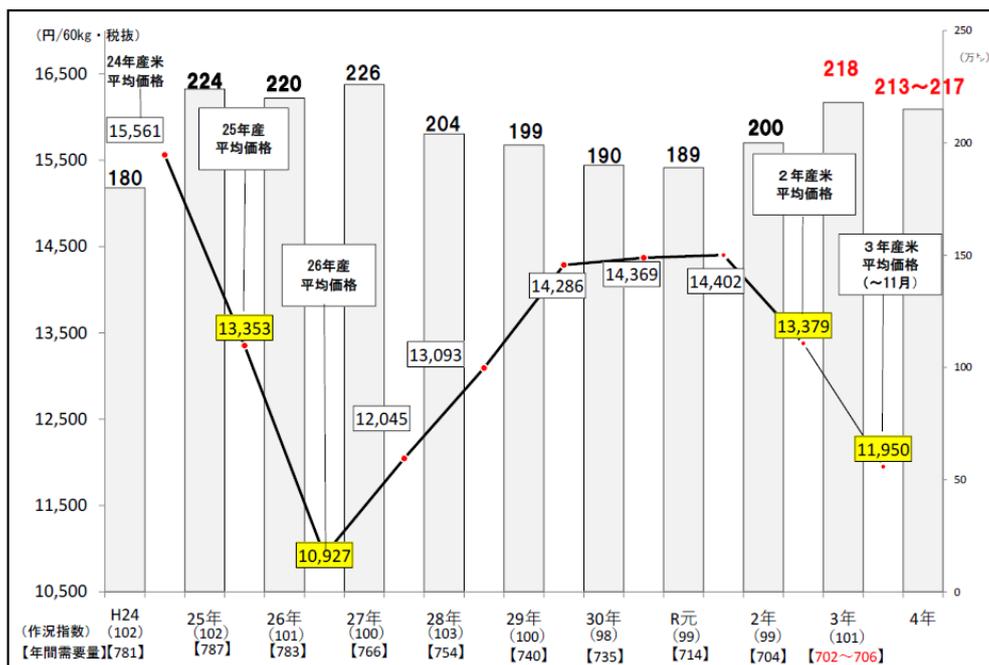
⑧ 懸念される事々、何をするか、何ができるか

【資料10 ページ「農業高校・農業大学校等からの就農状況」】

⑨ 自主流通だけのコメとなり、米価の低迷が懸念される

- ・ 下表をじっくりとご覧いただきたい。

<6月末民間在庫と年平均価格の推移>



- ・ J Aグループと農業法人組織等がしっかりとコストをつぐなう価格の実現に向けた取り組みと、需給調整、加えて、販売・輸出業者との連携した取り組みがなされなければならない。
- ・ もちろん、あわせて、主食たる米の生産・流通・販売について、農業者・J A・法人等が一体となった取り組みが行わなければならない。そして、このことについて国民的理解をいただき、取り組みを強めていきたい。